



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	静岡県立藤枝東高等学校	BEE	1.3	BEEランク B+ ★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点*/満点		取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.1	/5		ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上
				がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。					
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	3.4		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①中間期は自然換気による室温調整ができるよう、すべての居室に開閉可能な開口部を設けた。</p> <p>②連続調光形照明設備の設置</p> <p>③全ての階にRC庇を設けることにより、直射日光を遮る計画とした。</p> <p>④物理的標準耐用年数は60年の押出成形セメント板を採用</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤既存の植栽範囲を可能な限り残す計画とした。</p> <p>⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦BPI=0.73</p> <p>⑧教室、専有部のほぼ全体が、外皮に1方向に面している。</p> <p>⑨BEI=0.50</p> <p>⑩運用管理体制の計画なし</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪節水型大便器の導入。雨水利用設備の導入なし。</p> <p>⑫主要構造躯体の鉄骨の基準強度F=325以上</p> <p>⑬</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭</p> <p>⑮</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>				
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	2.8	
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>			
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	3.1
		<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>⑲視覚をなるべくつくりたくない、見通しのよい配置計画を配慮した。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
			<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点
		<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑲</p> <p>⑳緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉒持続可能な森林から産出された木材/㉓温熱環境悪化の改善)</p> <p>㉒持続可能な森林から算出された木材を使用していない。</p> <p>㉓</p>	<p>Q-3 1 ⑲ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ⑲ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑲ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ㉒ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ㉓ 温熱環境悪化の改善</p>		

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	静岡県立藤枝東高等学校	階数	地上5F
建設地	静岡県藤枝市天王町1丁目7番1号	構造	S造
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	955 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,600 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年1月30日
敷地面積	36,655 m <sup>2</sup>	作成者	針谷建築事務所
建築面積	1,250 m <sup>2</sup>	確認日	2022年2月30日
延床面積	5,317 m <sup>2</sup>	確認者	針谷建築事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 100%

②建築物の取組み 76%

③上記+②以外の 76%

④上記+ 76%

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目目で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 地域の歴史、文化及び風土に配慮し、周辺の自然環境及び都市環境と調和したものとす。これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	<b>その他</b> 無	
<b>Q1 室内環境</b> 普通教室、特別教室、図書室、管理諸室にエリアを区分して空調設備を設置。 快適な室内環境となるように配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 維持管理や更新が容易な仕上げ材を選定。 シンプルな建物形状とし耐久性のある建物としている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 既存の樹木をなるべく残した計画としている。
<b>LR1 エネルギー</b> 授業、活動が多様なことから個別の運転がしやすい方式を選定しパッシブとアクティブの各手法を適切に組合せた計画としている。 断熱、遮熱などの基本性能を高め、設備機器の負担を軽減している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 高効率機器類を採用し、CO <sub>2</sub> の削減をすることで、GWP(地球温暖化係数)の低減を図る。 オゾン層破壊の起因の一つとされる特定フロン使用材料の排除等、環境保全に配慮した材料・機器等の選定。	<b>LR3 敷地外環境</b> 周辺環境に対して光害、日照障害、風害のない建物とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される